

# 仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針（概要版）

## 第1章 方針の趣旨と位置づけ

こどもにとっての遊びは、他者への思いやりや自尊心、やり抜く力等の非認知能力を養うとともに、多様な体の動きを身に付けていくなど、健やかな成長の原点である。近年、都市化の進展や少子化の進行などにより、遊びの場や機会が失われつつあり、遊びの環境に対するニーズも多様化している。

本市においては、こどもたちを取り巻く社会環境の変化を踏まえ、こどもの育ちの原点である「遊びの環境の充実」を「すこやか子育てプラン2020」（計画期間：令和2～6年度）の基本施策に位置づけ、様々な取組を進めてきたところである。次期「せんだいこども若者プラン2025」においても引き続き、「遊びの環境の充実」を基本施策として位置づける。

これまでの調査・研究、実証実験等の結果や遊びや体験の重要性も踏まえ、遊びの環境の充実に向けて更なる取組を進めるため、本市の取組の基本的な方向性をとりまとめるものである。

## 第2章 本市におけるこどもの遊びの環境の現状と課題

### 仙台市の遊びの環境（令和2年度調査）

- 市民一人当たりの公園面積（15.39 m<sup>2</sup>/人）は、政令指定都市平均（6.8 m<sup>2</sup>/人）よりも多い。
- 児童館等が概ね小学校区に1館設置され（全113か所）、他都市と比較して充実している。
- 子育て支援の拠点となる施設として、「のびすく」が各区に1か所設置されている。
- 多様な民間施設があるほか、自然を生かした遊び場も一定程度ある。社会教育・文化施設は多数存在するが、体を使って遊べる無料の大型の屋内遊び場はなく、幼児から小学校低学年で市外の大規模な公園や市外の屋内施設の利用率が増加する。

### 市民ニーズの状況

- 自然の中・都心部・屋外・屋内、遊びの「場」としてはそれぞれにニーズがある。
- 令和5年度の仙台市子ども・子育てに関するアンケートにおいては、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所の充実」の施策の評価は平均より低く、今後力を入れるべき施策としての重要度は平均より高い。
- 仙台市子ども・子育てに関するアンケートや市民意識調査における自由意見においては、大型の屋内遊び場に関する意見が増加している。
- 令和5年度のアンケートによると、就学前児童の保護者では「市に充実してほしい情報の入手先」として「SNSでの情報発信」が40.1%と最も多く回答されている。

### 基本理念 都市個性を生かした、こどもの育ちと子育てを支える遊びの環境の充実

自主性や創造性を育むなど、こどもの育ちにおける遊びの重要性に加え、親子の楽しい交流の創出など、子育てを支える上での遊びの意義も踏まえ、自然と都市機能が調和する本市の都市個性を最大限にいかしながら、こどもが様々な遊びに触れることができる環境づくりを進める。

#### 基本的な視点

##### 視点1

#### 身近な場所での遊びの充実

公園や児童館など、こどもにとって身近な場所については、利用頻度の高い遊び場として重要である。こどもの身近な場所での遊びの機会創出は、こどもの居場所づくりにも資する取組である。こどもが安全・安心に遊ぶことができるコミュニティを目指した地域連携の取組や、市民団体等が実施するプレーパーク活動の普及や展開など、こどもにとって身近な遊び場である学校・児童館・公園等における遊びの環境の充実を推進する。

##### 視点2

#### 多様な主体との連携や都市資源を活用した遊びの充実

本市は山・川・海などの豊かな自然を有しているほか、のびすくを始めとした子育て支援拠点や児童館、社会教育施設、民間事業者といった多様な主体が、こどもの遊びや体験の機会を提供しているなど、様々な都市資源を有している。自然を活用したプレーパークの普及啓発や活動団体の支援、庁内外の様々な取組の情報発信の強化など、多様な主体との連携や都市資源の活用を図ることで、遊びの環境の充実を推進する。

##### 視点3

#### 都市の魅力向上させる遊び空間の充実

自然を活用した遊びの充実や、大型の屋内遊び場の整備など、子育て家庭の多様なニーズを踏まえた取組を進め、こどもの育ちと子育てを支えることで、遊びの環境の充実を通じた「子育てが楽しいまち・仙台」の実現に向けた取組を進めていく。

#### 推進体制

- 遊びの環境整備については、多様な主体と連携しながら進めていく。
- 子育て・若者に関する施策を総合的かつ効果的に推進することを目的として設置した、「こども若者応援推進本部」を活用し、「せんだいこども若者プラン2025」のもとに、全庁的な事業連携や情報共有を行いながら、取り組んでいく。

## 第4章 主な取組

### プレーパーク活動の推進

視点1 視点2

#### 目指す姿

- 子どもが自分で遊びを見つけ、心ゆくまで遊ぶことができるよう、子どもの遊びを見守る大人が環境を整え、子どもたちの「やってみたい」を実現できるようなプレーパークづくりを目指す。
- 市民のプレーパーク活動の認知度を高め、市民活動として実施しているこどもの居場所や多世代交流の場でもある身近な場所でのプレーパーク活動の拡大を目指す。

### 自然を活用した遊びの充実

視点1 視点2 視点3

#### 目指す姿

- 山・川・海などの自然資源を活用したプレーパークの普及・啓発や担い手の育成を進めるほか、多様な主体とも連携し、自然を活用した遊びに関する情報が子育て家庭へ届きやすい環境を目指す。

### 既存の施設での遊びの充実

視点1 視点2

#### 目指す姿

- 子育て支援拠点や社会教育施設をはじめとした様々な公共施設などの都市資源のほか、学校・児童館・公園等の子どもにとって身近な場所について、多様な主体と連携し、遊びの環境の充実を目指す。
- 子どもにとっての身近な場所における市民活動としてのプレーパーク活動を推進するなど、地域とも連携し子どもが遊びやすい環境づくりを目指す。

### 子どもが楽しめる公園づくり

視点1 視点2 視点3

#### 目指す姿

- 大規模な公園において、様々な遊びができる魅力的な公園整備（遊びエリアや特徴的な遊具導入）を行い、年齢層や障害の有無等に関わらず、みんなが楽しみ、遊びの拠点となる公園づくりを目指す。
- 身近な公園において、地域に応じた公園ルールづくりや地域による運営体制の構築により、柔軟な公園の利活用を推進し、日常の遊びを充実させるとともに、安全で居心地の良い公園づくりを目指す。
- 自然環境を生かした公園において、安全で訪れやすい環境づくりや水やみどりに親しむプログラムの展開など、自然体験を通じて、心身の健康を育む遊び場づくりを行い、自然と触れ合える公園づくりを目指す。

## 情報発信の強化

視点2 視点3

### 目指す姿

- 正確で分かりやすい情報に簡単にアクセスすることができるようにすることで、子育て家庭に必要な情報が確実に届くことを目指す。

## 大型の屋内遊び場の整備

視点2 視点3

### 目指す姿

- 仙台市の魅力である豊かな自然を活用した遊びなど、屋外の遊びと連続性をもった遊びが可能となる施設を目指す。
- こどもの育ちの観点から、遊びを通じて多様な体験の創出や学びにつながる施設を目指す。
- 本市の遊び場を象徴し、市全域からの利用を見込む施設を目指す。
- 社会全体で子ども・子育てを応援する気運を醸成するために、子育て家庭に限らず、多様な人が訪れる機会の創出につながる施設を目指す。
- 公共交通機関によるアクセスの利便性が高いことに加え、車で移動する子育て家庭も多いと見込まれることから、一定規模の駐車場を備えた施設を目指す。
- 施設の整備にあたっては、市民の様々な声を参考にしながら、多くの子どもたちが楽しめる施設を目指す。

### 施設整備候補地

- 施設の目指す姿を踏まえた候補地の主な要件は以下のとおり。
  - 大型の屋内遊び場が設置可能な広さがあること
  - 市全域からの利用が見込まれ、地下鉄の駅に近いなど公共交通の利便性が高い必要があるため市中心部であること
  - 自然を活用した屋外の遊びと連続性をもった施設にできること
- これらの要件を満たす場所について検討を行った結果、西公園南側区域の多目的広場が候補地として最も適すると判断した。



### 想定スケジュール

- 日々成長するこどものための施設であることを踏まえ、可能な限り早期の供用開始を目指す。
- 令和7年度は市民や関係者、有識者の意見聴取などを行いながら基本計画の策定を行い、令和8年度以降に設計・工事を行うことを目指す。